

鳴門西パーキングエリア地域連携推進協議会の設立について

2008年に始まったと言われる我が国の人口減少は、今後加速度的に進み、四国4県では2010年からの30年間で約100万人が減少すると見込まれており、人口減少による影響を緩和させ地域活性化を図るためには、交流人口を拡大することが極めて重要です。

一方、訪日外国人旅行者は年々増加しており、2015年には約1973万人と過去最高となり、これを受け、日本政府は訪日外国人旅行者数の目標値を2020年に4000万人、2030年は6000万人に大幅に前倒しし、国を挙げてインバウンド対策に取り組んでおり、2019年にはラグビーワールドカップ日本大会、2020年には東京オリンピック・パラリンピックの開催も控えているところです。

四国地域が今後も持続的に発展していくためには、この機を捉えて、更なる交流人口の拡大に向けて観光促進などの取り組みを強力に推進していく必要があります。

このような状況の中で、高松自動車道 鳴門西パーキングエリアは、鳴門市の西部に位置し、主に関西と四国を結ぶ高速バスの停留所「鳴門西バスストップ」が併設され、周辺には、四国遍路の始まりとなる1番札所『霊山寺』、2番札所『極楽寺』があり、また、『鳴門市ドイツ館』、『鳴門市賀川豊彦記念館』、『大谷焼の里』などの観光資源も多数存在しています。

このため、観光関連団体、学識経験者、行政機関、パーキングエリア管理者などで組織する「鳴門西パーキングエリア地域連携推進協議会」を設立し、鳴門西パーキングエリアを起点とした鳴門市西部地域の観光振興を推進することにより、お遍路及び観光客等による交流人口を拡大させ、地域の更なる活性化、連携強化に取り組むものです。

平成28年6月10日